

「変形菌の配布(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

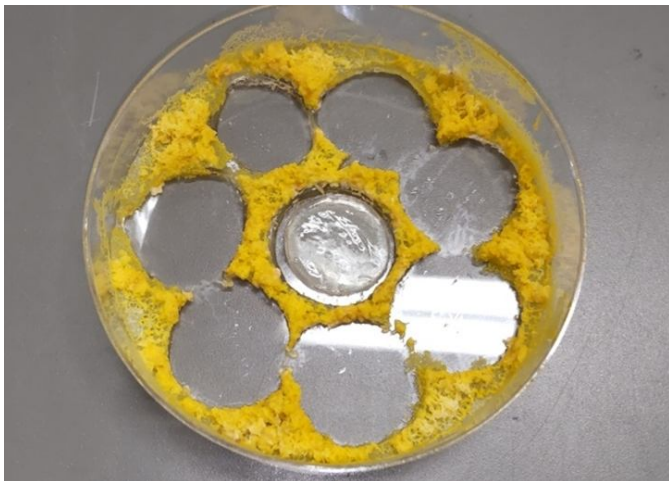
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

モジホコリの仲間の変形体は、独特の甘い香りがする。この「甘い香り」が変形体が元気な証拠でもある。変形体自信が発する、揮発成分の一種らしい。シャーレの蓋を開けると、子どもたちは「果物みたいなにおいがするー」と言っていた。



持ち帰りの容器でくり抜いたので、もちろん容器ぴったりの大きさである。切手用のピンセットが、寒天培地も変形体も傷つけにくく、一番適している。



直径 10cm のシャーレ一杯に培養した変形体から、配布用の円形の変形体を 8 個採取できる。残った部分は廃棄せずに、次の変形体培養の種菌(たねきん)として十分に利用できる。この量でシャーレ 3 個分の種菌になるので、理論上は「配布すればするほど、菌株はどんどん増える」ということになる。丸くり抜いた寒天を穴に入れて、餌を与える簡易な持続法もある。



飼育に必要な最低限のものも配布した。左がエサのオートミール(10~20日分)、右が粉末寒天 1g(寒天培地約 120mL 分)である。あとは蓋付タッパーなどの適当な容器があれば、すぐに培養・実験が可能だ。



説明書、粉末寒天、餌、持ち帰り袋、説明書を順番に並べ、希望者にとってもらった。この準備は、3年生の子どもボランティアが手伝ってくれた。



これが、子どもたちが持ち帰ったセットである。コロナ自粛生活の中、楽しく培養・観察してくれることを期待している。